

自 己 点 検 表

1. 教員個別表

フリガナ 氏 名	オオクボ タケシ 大久保 剛	職 名 人間学部	教授 健康栄養学科	取 得 学 位 (大学名) 北海道大学	博士(水産科学) (取得年月) 2010 年 09 月
-------------	-------------------	-------------	--------------	------------------------	--------------------------------

2. 教育・研究業績表

(1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 相山女学園大学 食品栄養学科特別講座(大学院修士課程)	2023.08.28	大学院修士課程向けの集中講義を実施した。特に栄養素としてのコリンやω3 系脂肪酸結合型リン脂質に関する自分が実施した実験結果を交えながらコリン化合物の重要性を概説した。
2. 戸板女子短期大学 基礎栄養学 後期講義	2023.09 ～2024.01	栄養士養成課程において基礎栄養学の講義を実施。栄養士実力認定の対応も行った。
3. 小田原短期大学 食品学 I 前期講義	2024.04 ～継続中	栄養士養成課程において食品学の講義を実施。1年生対象ゆえ基礎的な内容から説明を行った。
4. 放送大学 栄養と健康 集中講義	2024.12 ～継続中	年齢層の幅広い受講生に対して、食べることの重要性和栄養学の基礎的な内容を説明した。
5. 宮城大学 官能評価学 後期講義	2025.09 ～継続中	食品の官能評価に対して、実経験に基づいた評価方法や学術論文から得られる最近の知見について説明した。
6. 福島学院短期大学 食品加工学 前期講義	2025.04 ～継続中	栄養士養成課程において食品加工学の講義を実施。2年生対象ゆえ基礎的な内容から実際の企業で行われている概要について説明を行った。
7. 講義(食品加工学実習)	2015. 04～	健康栄養学科 3 年生の受講科目。管理栄養士国家試験受験資格取得必修科目、フードスペシャリスト受験資格取得必修科目。 身近な加工食品の試作を通して、それらの原材料や使用食品添加物に関する知識、および製造工程や加工技術などを学習することを目的としている。現代に欠かせない加工食品について、加工食品の意義、食品素材の生産、特性、加工、貯蔵とそれらに関わる製造原理・製造技術を理解す

8. 講義(食品機能論)	2015. 04～	ること。また、管理栄養士が関わる分野の食品開発について実践のための基礎を養うことを到達目標としている。 健康栄養学科 4 年生の受講科目。食品衛生管理者及び食品衛生監視員任用資格取得必修科目、フードスペシャリスト受験資格取得必修科目。 食品の三次機能である、生体調節機構について基礎知識を習得する。また、社会に流通している特定保健用食品や栄養機能食品の制度について理解を深めることを目的としている。具体的には、食品に含まれている成分の生理機能について理解を深め、食事の重要性を認識する。食品に含まれている成分と生理機能を説明し、食と健康の関係を理解していくことを到達目標としている。
9. 講義(食品学実験Ⅱ)	2016. 04～	高校時代に文系コースに在籍していた学生も入学しているため、機器操作などに習熟していない学生が散見される。そのため、食品学実験Ⅰでは基本的な機器操作及び定性実験を中心に、食品学実験Ⅱでは、身近な食品中の栄養素の定量分析(たんぱく質、脂質、炭水化物を中心に定量)を行っている。経験値を増やすことと、基本操作の重要性を指導の課題とし、実験の経験値が低いため、実験が上手く行くことでモチベーションを高められるような構成に工夫をしている。
10. 講義(食品開発論)	2018. 10～	会社員の経験を活かして、実際に食品企業においてどのように製品が企画され、製造され、販売されていくかを概説した。参考書に頼らず、自らの経験を元に講義を組み立てている。
11. 講義(基礎栄養学)	2019. 10～ 2021. 03	管理栄養士養成課程であるため、3大エネルギー栄養素を中心に消化、吸収など臓器のメカニズムを分かりやすくするように努めた。また、代謝経路などは極力、図などを多用して視覚的に理解させることを行った。

(2)過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
○学術論文(査読有)						
1. Distribution of 5-Methyltetrahydrofolate and Folic Acid Levels in Maternal and Cord Blood Serum: Longitudinal Evaluation of Japanese Pregnant Women.	共著	2020	Nutrients 12(6)	Kubo Y, Fukuoka H, Kawabata T, Shoji K, Mori C, Sakurai K, Nishikawa M, <u>Ohkubo T</u> , Oshida K, Yanagisawa N, Yamashiro Y.		1633.
2. 食物からのコリン摂取の重要性	単著	2020	ビタミン 94(11)	<u>大久保 剛</u>		539 – 544
3. Are lifestyle factors significantly associated with self-rated health among Japanese female healthcare students?	共著	2021	BMC Public Health 21(1)	Ohtsuki M., Wakasugi Y.,, Narukawa T.,, Uehara S.,, <u>Ohkubo T.</u>		505.
4. Comparison of the Physical Characteristics and Behavior in ABC Transporter A1, A7 or Apolipoprotein E Knockout Mice with Lipid Transport Dysfunction.	共著	2021	Biological & pharmaceutical bulletin 44(12)	Hiromi Tsushima, Kazuyo Yamada, Daisuke Miyazawa, <u>Takeshi Ohkubo</u> , Makoto Michikawa, Sumiko Abe-Dohmae		1851-1859
5. Are lifestyle factors significantly associated with self-rated health among Japanese female healthcare students?	共著	2021	BMC Public Health 21	Makoto Ohtsuki, Yusuke Wakasugi,		Article number 505

6. Current Situation of Dietary Choline in Japan: The Nutritional Significance of Dietary Choline (SY(T2)1)	単著	2022	Journal of Nutritional Science and Vitaminology	Takuhiro Narukawa, Shunsuke Uehara, <u>Takeshi Ohkubo</u> <u>Takeshi Ohkubo</u>	68(Supplement) S34–S36
7 . Association of Fatty Acid Desaturase 1 rs174547 Polymorphism with the Composition of Long-Chain Polyunsaturated Fatty Acids in Serum Glycerophospholipids during Pregnancy.	共著	2023	Nutrients	Terue Kawabata, Hideoki Fukuoka, Michiru Harada, Kumiko Shoji, Yoshinori Kubo, Chisato Mori, Kenichi Sakurai, <u>Takeshi Ohkubo</u> , Kyoichi Oshida, Yuichiro Yamashiro	15(3)
8. Long-term intake of α -glycerophosphocholine (GPC) suppresses microglial inflammation and blood-brain barrier (BBB) disruption and promotes neurogenesis in senescence-accelerated mice prone 8 (SAMP8)	共著	2023	Biosci Biotechnol Biochem.	Mitsuki Umino, Mayumi Okuda, <u>Takeshi Ohkubo</u> , Tsutomu Fujii, Kiminori Matsubara	21;87(12):1537–1542.
9. Role of Gpcpd1 in intestinal alpha-glycerophosphocholine metabolism and trimethylamine N-oxide production.	共著	2024	The Journal of biological chemistry	Siyi Chen Shiho Inui, Rahmawati Aisyah, Ryoko Nakashima, Tatsuya, Kawaguchi,	107965–107965

				Minori Hinomoto, Yoshiko Nakagawa, Tetsushi Sakuma, Yusuke Sotomaru, Noriyasu Ohshima, Thanutchaporn Kumrungsee, <u>Takeshi Ohkubo</u> , Takashi Yamamoto, Yutaka Miura, Takuya Suzuki, Noriyuki Yanaka		
10. Stress-Easing Effect of Diacyl Glyceryl Ethers on Anxiety-Related Behavior in Mice.		2024	Foods (Basel, Switzerland)	Rong Jiang, <u>Takeshi Ohkubo</u> , Toshihiko Sato, Nobuyuki Sakai		13(23)
11. メンタルヘルスと睡眠 ～食事からメンタルヘルスと睡眠を考えてみる～		2025	日本未病学会雑誌			31(1) 39-43
○総説(査読なし)						
1. コリン化合物の重要性と運動機能への影響	単著	2020	オレオサイエンス 20(4)	<u>大久保 剛</u>		157 - 162
2. イクラ含有脂質による睡眠効果	単著	2020	アクアネット(12月号)	<u>大久保 剛</u>		30 - 34
3. コリン化合物摂取の重要性	単著	2021	アグリバイオ 5(2)	<u>大久保 剛</u>		78 - 81
4. コリン化合物摂取による高齢者の認知機能改善効果	単著	2024	飯島藤十郎記念食品科学振興財団年報	<u>大久保 剛</u>		38
5. 脂質摂取と睡眠について	単著	2025	食と栄養(32号 Winter)	<u>大久保 剛</u>		13-19

○著書						
1. 【第Ⅴ編 脳】第6章大豆ホスファチジルセリン	共著	2020	運動機能・認知機能改善食品の開発 ISBN:978-4-7813-1507-2			49-74 115-123 139-154
2. 脂質摂取による睡眠への影響	単著	2020	水産油脂技術懇話会記録 一般財団法人 日本水産油脂協会			278-284
3. 食べ物と健康Ⅰ〔食品学総論〕	共著	2022	八千代出版 ISBN:978-4-8429-1825-9			35-42 101-105
4. 食べ物と健康Ⅱ〔食品学各論〕	共著	2022	八千代出版 ISBN:978-4-8429-1826-6			105-113 137-141

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
なし						
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		
本人発表分のみ						
1. 秤量法による食事からのコリン化合物摂取量の算出(2)			2020	日本肥満学会・日本肥満症治療学会合同学術集会(web開催)		
2. 幼稚園および保育園において食育に及ぼす絵本の効果			2020	第9回日本食育学会総会・学術大会講演		
3. 食べ順による代謝への影響			2021	第46回日本睡眠学会定期学術集会(福岡)		
4. 魚食普及における絵本の効果について			2021	第10回日本食育学会総会・学術大会講演(web開催)		
5. 大学生における食事と睡眠の関係について			2021	第76回日本栄養・食糧学会大会(神戸)		
6. 絵本による教育学的配慮に基づいた魚食促進ためのアプローチ			2022	第47回日本睡眠学会定期学術集会(京都)		
7. γ -GTPと食事からのコリン摂取の関係			2022	22nd IUNS-ICN International Congress of Nutrition(Tokyo)		
10. 大学生における食事と睡眠の関係について(2)			2022	第77回日本栄養・食糧学会大会(札幌)		
11. Relationship between γ -GTP and dietary choline intake			2022	第11回日本食育学会総会・学術大会講演(恵庭)		
12. 睡眠に対して牛乳や乳製品によるコリン化合物摂取が役立つか?			2023	第77回日本栄養・食糧学会大会(札幌)		

やずや食と健康研究所 研究助成	2015		食事調査法を活用したコリン摂取量の算出方法の確立に向けた検討	1,500 千円
乳の学術連合「牛乳乳製品健康科学」学術研究	2020		牛乳及び乳製品はコリン化合物摂取に役立つか？	1,340 千円
一般財団法人旗影会	2020		健診データを用いて検討した疾患とコリン摂取との関連	1,000 千円
公益財団法人 飯島藤十郎記念食品科学振興財団	2020		コリン化合物摂取による高齢者の認知機能改善効果	850 千円
科学研究費助成事業 基盤研究 B	2021		コリン供給体としてのグリセロホスホコリン ー機能および吸収機構の解明から利用へー（研究分担者）	
科学研究費助成事業 基盤研究 C	2022		妊娠可能年齢女性を対象とした葉酸投与による n-3 系脂肪酸及びコリン代謝への影響（研究分担者）	
一般財団法人旗影会	2024		食材としてのタマゴはコリン化合物摂取に役立つか？	2,000 千円
一般財団法人杉山産業化学研究所	2025		女子バレーボールチームへの食事介入による筋肉への影響について	1,000 千円

3. 特記事項

○ 講師

公益財団法人 神経研究所 睡眠健康推進機構＋文部科学省共同事業 学校訪問型睡眠講座ねむりんねっと 講師 2020～